平成30月10月　市長定例記者会見

2018年10月１日(月)

午後１時30分　開始

【秘書広報課長補佐】　お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから平成30年10月市長定例記者会見を始めます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答が終了いたしましたら、次第の３番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

なお、ご質問の際は、お手数でございますがご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようご協力をお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】　皆さん、こんにちは。10月の定例記者会見でございます。

最初に、台風24号が昨日、敦賀を通っていきましたけれども、大分雨と風を心配しましたが、そんなに大きい雨も降りませんでしたし、風につきましても一部建物被害があったみたいですけれども、けが等がなかったので、良かったなと思っております。

どうやって災害時に情報を発信するかというのは非常に難しいところで、皆さんが安全に避難していただくということも大事ですけれども、オオカミ少年にならないような伝達の仕方ということも非常に難しいので、どうやって出していくかということをこれからも気をつけてまいりますので、よろしくお願いします。

それから、福井しあわせ元気国体ですが、台風の影響がありますけれども、卓球競技は今日もやっていますし、盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

その中で、剣道少年女子が福井県、優勝いたしまして、メンバーは５人とも敦賀高校の生徒ということで、非常にうれしいですし、誇らしく思っております。ぜひとも盛り上がって応援していきたいと思います。

それから、敦賀駅とか新疋田駅に、国体に合わせて、９月15日ですけれどもＩＣＯＣＡカードが使えるようになりました。これから都会の人たちがいつも改札口の横で待っていて精算するというのを見ていましたけれども、スムーズに敦賀に入ってこられるということで、やっとそういう都会の経済圏と一緒になれたのかなと思っております。これからも北陸新幹線に向けて準備をしていきますので、どうぞよろしくお願いします。

以上です。

【秘書広報課長補佐】　続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】　今回の事業発表は一つだけです。

観光物産inみなと敦賀2018の開催についてでございます。

昨年に引き続きまして、観光物産inみなと敦賀2018を10月20日土曜日と21日日曜日の２日間、きらめきみなと館を会場に開催します。イベントでは、敦賀の魅力が再発見できるようなイベントを目指し、昨年、日本遺産に認定されました北前船寄港地・船主集落をテ

ーマに、北前船の大型模型を使用し、その果たした役割、魅力をＰＲするコーナーの設置や、これからの敦賀を象徴する北陸新幹線敦賀開業を広く周知するためのＰＲコーナー等を設置します。

また、敦賀が誇る特産品であります敦賀ふぐを使ったふぐ鍋の販売や、手すきおぼろ昆布の振る舞いなど、敦賀市が誇るグルメを初め、全国から集まる友好市町の特産品も販売されますので、関係市町との友好を深めるとともに、観光客の誘致と市内経済の活性化につなげてまいります。

どうぞよろしくお願いします。

【秘書広報課長補佐】　それでは、ただいま発表いたしました項目についてご質問をお受けしたいと存じます。

本日は、幹事社さんが出席されておりませんので、各社お伺いをさせていただきたいと思います。発表項目につきまして、ご質問がありましたら挙手のほうよろしくお願いいたします。

【記者】　物産フェアなんですけれども、ブースはどれぐらい来るんですか。

【市長】　部長が答えます。

【産業経済部長】　まず出店ブースでございますけれども、友好市町の関係では10団体、10ブース、そして市内業者では18団体、18企業のブースが出る予定になっております。また、テーマということで、市長が申しました北前船に関係するグルメとかそういった部分に関係する部分もブースとして考えておりますし、北陸新幹線敦賀開業に向けた、そういったＰＲブース等々、たくさん取りそろえているという感じになってございます。

以上です。

【記者】　ここで書かれている大型模型というのは、大きさどんなものでしょうか。

【産業経済部長】　北前船のメーンシンボルということで、展示する部分につきましては、手づくり木造の北前船。高さが約３メーター40センチ、長さが約４メーター60センチの大きさのものを一つの寄港地の特産品と、そういった部分でディスプレーという形で考えているところです。

【秘書広報課長補佐】　それでは、ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次第の３番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。これもご質問がありましたら挙手のほうをよろしくお願いいたします。

【記者】　最初に原発のことで。

もんじゅの燃料取り出し開始からおおよそ１カ月が過ぎたんですが、何度か一、二日止まったりする事案もありましたけれども、現状１カ月を終えて、市長から見て機構のやり方とか燃料取り出しの作業自体についてどう感じられるか。

【市長】　スケジュールがあって作業を進めていますけれども、スケジュールに関しては、私どもはこだわらない。とにかく安全にしてくれということでお願いしています。そういう意味では、作業では、何もトラブルがないのが一番いいんですけれども、何かあったときにはきちんと立ち止まって作業しているのかなということを感じていますので、安全に対しては、私どものお願いしたとおりにきちんと確保しながらやっていただいていると思っています。

【記者】　今日から原発の関係で、規制庁のほうが新しい規制基準の施行、段階を経て変

えていくということですけれども、より事業者の責任をはっきりさせ、規制庁側の検査官の力量が問われる仕組みに変えるということですけれども、原発の立地地域の首長さんとしてそのあたり、基準が変わっていくということについてはどういうふうにお考えなのか、聞かせてください。

【市長】　基準が変わるということにあまり詳しくないんですけれども、抜き打ちでやったりとか、事前に言わずにやれたりするということを聞いていますけれども、それが本当に実際に効果があるのかどうかということに対しては、よくわからないというところが正直なところで、私ども地元としましたら、安全がどうやって確認できるかということをやるべきだと思っていますので、安全設計とかそういうことについて、しっかりと規制基準についてもつくっていただいてやっていただきたいなと思っています。

通常の工場の抜き打ち検査みたいな、出荷検査みたいなところじゃなくて、100％安全ということを目指していかなくてはいけないので、そっちに向いていらっしゃるのかどうかというのがよくわからないというのが正直なところです。

【記者】　もんじゅの関係で、重複するところもあるかもしれないんですけれども。機構としては年内に100体を取り出すという作業目標がありますけれども、現在、二十数体、二十二、三体かと思うんですが、残り３カ月で簡単な計算をすると10日程度の抜き取りをしない時期があるかと思うんですけれども、現状では別に厳しいとかそういう話はまだ出てないですが、現状に対する市長のお考えというのをよろしくお願いします。

【市長】　また同じ答えになりますけれども。年内とかそういう目標設定はされていますけれども、私たち立地とすると、それはあくまでも目標であって、期限とかそういう守らなくてはいけないものという捉え方をしていなくて、できるだけ安全ということを最優先にやってほしいので、余りそこにこだわって言い出すと、ばたばたとなって万が一のことがあると、そっちのほうが嫌なので、やっぱり何かあったら立ちどまって、きちんと検査して、もう一回作業をするということが大事だと思います。着実に作業を積み重ねていって、その後にゴールがあるということだと思っていますので。

【記者】　先月起きた東洋紡の火事なんですけれども、あれはまず発生、僕も当日と翌夜、取材していたら、住民の方がどういう状況になっているのかというのがよくわからなかったという話を何人か聞きまして、あれほどの大規模な火災なので、なかなか状況の把握というのも難しかったとは思うんですが、市からの情報提供とか、そこら辺で何か課題なり、やってきたことなり見えてきたことというのはあるのでしょうか。

【市長】　情報提供につきましては、一番大事なのは、市民の皆さんに危険が及ばないようにどうするかということの中の情報提供だと思っていますので、大きな工場の中で、ただ単純に火事があっただけでは、そういう情報提供の対象にならない。要は、私たちが関与するものじゃないと思っているんですけれども、今回はそれが大きな火事になりましたので、途中からは災害対応みたいな形で私ども対応させていただきました。

その中で、暗くなってきて、赤いのが見えるので皆さん心配だったと思います。私どもも危険性があるというふうに判断すれば避難をしていただかなくてはいけないんですけれども、風も穏やかでしたので、そこまでなかったので、情報を積極的に出すところまでではなかったということですね。

【記者】　要は現状を把握されて、そこまで燃え広がらない、延焼しないという部分で、

積極的な情報は出さなかったというか、発信までは行かなかった。
【市長】　そうですね。最低限、工場の敷地の外に火が行かないということがその状態でわかっていたというか、その状態ではそういう危険を感じなかったので、避難してくださいとか、どうしてくださいよということは出さなかったということです。
【記者】　関連で、これは避難の話ではないんですけれども、煙のところで、県の検査する機械があったんですけれども、それ以降でまた何か有害物質が見つかったとか、そこら辺の情報というのは当日もなかったということなんですか。現状で調べても、いかがでしょうか。
【市長】　そのときも有害物質が出てないかという、当然、避難の対象としてそういうことがないかということは気にしていたんですけれども、そういうものは出ていない、含まれていないということでしたので、避難の対象としなかったということですし、今もそれに対しては、有害なものがありましたということは聞いてないです。
【記者】　あと１点。国体の話なんですけれども、剣道の少年女子のお話で。先ほど市長からもお話を伺ったんですが、改めて、敦賀の子供たちが頑張って活躍したということに対して、市長の喜びというか、そこら辺の感想をお聞かせいただけますか。
【市長】　本当にうれしいなと思っています。新聞で２回戦というのを見ていましたから、今日、優勝したので、良かったなと思っています。敦賀で毎年、福井県の剣道の大会が行われるんですね。ですからそういう先輩方というか、指導者の方の力、努力というのが報われたんだろうなと思って、それも感じてしみじみとうれしく思っています。
【記者】　何かねぎらいとか、今後何か考えていらっしゃることはあるのでしょうか。
【市長】　それは報償規程がありますので、その中でさせていただくことになろうかと思いますが。また、いい方向に考えられたら考えてみたいです。
【記者】　東洋紡の話が出たので、ちょっと関連で。
　市街地にケミカル工場があるということの、それの大災害の問題点が今回出たと思うんですけれども、化学工場の大きな災害に対する防災計画とか、特有のものという必要性というのは今回、有害物質は煙として出なかったとされていますが、あそこにはいろいろな物質もあったので、そういう防災計画とか避難計画を改めて市街地にある化学工場特有のものをつくるとかいう考えはないのでしょうか。
【市長】　大きな工場ですので、自主防災会がしっかりと自衛消防団もつくっていますので、そういう中で私どももある程度、安心していた部分もあるんですけれども、工場の中ということを考えたときに、情報の機密性というものがあって、なかなかわからない間取りもありますので、その辺はある程度把握しておくべきだなと。ですから、どこに何があるかとか、どういう間取りかということもわからないまま突入するというのは非常に危ないと思いますので、そういう意味では、もう少しあり方は考えて検討すべきだというふうに思っています。
【記者】　事前にそういう間取り、多分、消防が最初に入るので、その管理者としての立場でおっしゃったのかもしれませんけれども、今回、構造上もなかなか複雑ということもあったでしょうし、それを事前に事業者に提供してもらうということ。
【市長】　そうですね。多分、消防の方は図面をもらって、そこから入っていっていると思うんですよ。ですから現場勘というのは余りなかったんじゃないかと思いますので、そ

うすると消火活動に対する危険性も伴いますから、その辺はきちんと知っておくべきだなと思っていますし、もし火災が起きた場合にどういうふうに燃え広がっていくのかという、要はそれぞれに考えておかなくてはいけないことなのかなということも感じました。

なかなか消えなかったので、ちょっと怖かったんですけれども、消えないというのは、火の力と、かける水の量が拮抗したというので長引いたと思っていますけれども。県内から応援をもらいましたので、それで制圧できたというふうに思っています。

それも、けがする人がいなかったので、よかったなと思っています。

【記者】　東洋紡も再建計画というのを今後考えていかなければいけないと思うんですが、あれぐらい大規模な火災を起こして、市長の今の思いとして、現場で再建してもらいたいのか、それともどこか違う場所に移して再建してもらいたいのか。そこら辺の思いというのはあるのでしょうか。

【市長】　東洋紡とすると、敦賀市で再建をしたいという意思表示はされたと思っていますので、敦賀でぜひ再建をしていただきたいと思っています。

今一番心配していますのは、従業員の方とか下請、孫請の方たちがいらっしゃいますので、再建までの時間をいかに短縮するか、もしくは、そのための何かの支援をしないと、長い間止まっていると生活に対して非常に不安定になってくるでしょうから。ですから、従業員の方、下請の方、孫請の方、そういうところにどういう支援ができるかというのを今後考えていかなくてはいけないと。

【記者】　今の東洋紡の関係なんですけれども、発生の翌日に社長が来られて、市長に会われていると思うんですけれども、そこで市長から社長にどういったことを言われたのかということと、今回の火災で、事業者である東洋紡から住民に対する情報提供とか、そういったことが私は不足していたと思うんですけれども。だから住民の方も、今どういう状況で、家にいて大丈夫なのか、それとも危ないのかわからなかったと思うんですけれども、その点について、東洋紡から住民への情報提供について、特に問題ないというお考えなのか、それとももう少し積極的に何かするべきだったということなのかということと、あと、市や消防に対しては適切に情報が上がっているような状況だったのでしょうか。

【市長】　東洋紡の社長が見えたときには、まだ完全に火は鎮火しておりませんでしたので、とりあえず駆けつけて謝罪をしたという形だったので、そんな詳しいお話はしておりません。

あと、消防と私ども市との関係ですけれども、消防自体は精いっぱいそこに全力を投球しているという形でしたので、一々報告を受けて、その力をそぐということはできませんでしたので、なかなか情報のない中でしたけれども、住民の皆さんの安全だけは今の間は大丈夫だということは確認しておりましたので、それで十分だったと思います。

【記者】　いや、東洋紡から敦賀市であるとか消防に対しては、迅速に情報提供があったような状況だったのかということなんですけれども。

【市長】　東洋紡の社員さんとかそういう人たち自体は、火事が起きてしまったときには、その現場から離れてしまったと思うんですけれども。ですから多分、東洋紡の人たちもよく火事の状況はわからない状況だったんじゃないかと思います。

ですから、燃えるものに有害物質がないということと、延焼の程度が周りに延焼しない、敷地の中でおさまるということくらいしかわからなかったと思います。火事の中に東洋紡

の人はいなかったと。

【秘書広報課長補佐】　ほかにご質問がある方、挙手をお願いします。よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして10月の市長定例記者会見を終わります。

ありがとうございました。

午後１時54分　終了